

平成 21 年度研修受講後の自己の課題への取り組み過程と課題達成状況

手術部

○高岡 寿明

私は中堅者研修受講後の自己の課題で、「手術後皮膚障害が生じていた症例に対して電子カルテへの画像記録を行うことを徹底させる」ということをテーマに挙げて取り組んだ。

本院では、電子カルテと手書きの記録が混在しており、手術看護記録は、手書きで行うようになっている。手術後に褥瘡を発見した為、手書きの看護記録用紙に記録し申し送りを行ったが、後日術後訪問を行ったときに、観察・処置等が行われておらず、病棟看護師に確認すると、「見忘れていた」と言われた。このことから、病棟の看護記録は電子カルテが主である為、手書きである手術部看護記録を見忘れてしまう可能性があることが原因の1つに考えられる。

また、手術後にⅠ度の褥瘡であったものが、病棟に帰った後に褥瘡が悪化しているのではないかと看護師から問い合わせがあったが、手書きの情報だけで申し送られ電子カルテに画像として残っていないため、悪化しているかどうかの評価が行いにくい状況にあった。

上記のようなことを改善していくために、電子カルテに情報を画像として取り込み、記録を残すことで、手術部から病棟へのより良い継続看護が行われるのではないかと考えた。

課題に対しての具体的取り組みとしては、画像記録のメリットと行い方を説明し、手術後皮膚障害が生じていた症例に対し、電子カルテに画像記録し、継続観察を行った。

実践した内容への評価は下記のようになっている。

10月から、12月までは、皮膚障害が生じていても画像記録が残っていないことが多かった。問題点としては、①「行い始めたばかりで画像記録の行い方が解らない」②「時間外手術で人数が少ない中、画像記録まで手が回らない」という事が挙げられた。

| | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 |
|-----------------|------|------|------|-----|
| 皮膚障害発生件数 | 3 | 5 | 5 | 4 |
| 電子カルテへの画像記録実施件数 | 1 | 0 | 1 | 3 |

そこで、1月4日に問題①については、画像記録の行い方の資料を見ながら個々へ説明した。問題②についてはデジタルカメラにとりあえず写真を撮影し、記録できなかった時は、翌日に記録を残してもらう方法を提案し、実行を呼びかけた。

問題点に対する取り組みを行うことで、1月は画像記録実施件数が増加した。今回1月までの結果であるが、今年4月から、毎月1回の全体ミーティングで、皮膚障害発生件数と、画像記録実施件数を発表するようにして、より実施件数が増えてきている。また、今回の活動前よりも、皮膚障害に対して手術部全体が敏感になり、皮膚障害予防への取り組みも活発に行えるようになってきていると感じている。

今後も、100パーセント実施に向けて活動したいと思う。